

小学校外国語活動のICT教材「ALEX」の作成と活用

情報教育・ICT活用班 大河原 隆徳(小学校教諭)

現状と課題

【児童】

- もっと知りたい、もっと話したい。
- 言葉がわからなくて不安。

音声や表現にもっとふれる機会が必要

【教師】

- 自分の外国語の発音や表現が心配。
- ALTがない授業が不安。

音声や表現についての教材が必要

実践の概要

●ICT機器を利活用した教材提示を取り入れた授業実践

学習過程

場面

めあてをもつ

私も英語で話したいな。



単元で学習する表現にふれる。

活用

慣れ親しむ

わかるぞ。もっと話したいな。



チャンツやゲームで単語や表現の練習をする。

活用

会話を楽しむ

こうに表現するんだね。



コミュニケーション活動前に模擬会話をを行う。

活用

●単元で扱う会話や表現、単語に慣れ親しむことのできるICT教材「ALEX」の作成

ICT教材「ALEX」



【教材の内容】

- ・会話
- ・単語、表現
- ・模擬会話
- ・使い方
- ・作成方法



教材作成時の留意点

- ネイティブスピーカーの音声
- 児童にとって身近な出演者
- 実際に活動で行う表現
- 簡単な作成方法



【目指す児童像】

- 英語で多くの人とコミュニケーションを図ることのできる児童

成果

- ICT教材「ALEX」を利活用することにより、児童がネイティブスピーカーの発音にふれる機会が増え、外国語の音声やリズムにより慣れ親しむことができた。外国語に自信をもつことで、学習への取り組みも意欲的になり、楽しみながら多くの児童とコミュニケーションを図ることができた。
- 大型テレビを利活用した教材提示をすることで、児童の学習意欲が高まり、集中して活動に取り組むことができた。



授業風景



教材提示方法